手作り紙芝居

「21世紀への対話」

1枚目／一通のエアメール　（6枚目の絵の裏に貼る）

インドネシアのワヒド前大統領は2002年に池田先生と会談した折、次のように語りました。「実は、20年前に対談集を読み、会える日を夢見てきました」と。

その対談集とは、池田先生とイギリスの歴史学者アーノルド・J・トインビー博士との対談集『二十一世紀への対話』でした。この対談集は、28言語に翻訳・出版され、世界の識者や国家指導者をはじめ、世界中の人々に愛読されています。

対談のきっかけは、トインビー博士から届いた、一通のエアメールでした。そこには「人類の直面する基本的な諸問題について、是非とも語り合いたい」と認められていました。

2枚目／アーノルド・J・トインビー博士　（1枚目の絵の裏に貼る）

二十世紀最大の歴史家と呼ばれる、アーノルド・J・トインビー博士。著書『歴史の研究』に代表される博士の歴史観は、「文明」という大きな視点から世界史を考察する、独創的なもので、その後の歴史研究に大きな影響を与えました。博士の革新的な業績に対して激しい批判がおこるなかで、博士は徹して研究を重ね、信念を貫いてきました。

このような博士が池田先生との対談を強く望んだ理由は二つありました。一つは、現代文明の危機を乗り超える高等宗教として、仏教に強い関心を抱いていたことでした。もう一つは、家族や友人、さらには最愛の息子までもが若くして亡くなったことから、「生と死」の問題を深く語りあえる相手を探していたのです。

3枚目／メイフラワータイムの出会い　（2枚目の絵の裏に貼る）

1972年の花薫る5月。ロンドンで池田先生とトインビー博士の初めての対話が行われました。当時、博士は83歳。池田先生は44歳でした。

池田先生は対話の冒頭「私はこれまで、仏法者として、『生命の尊厳とは何か』『人間とは何か』といった根源的なものを、常に探求してまいりました」と語りました。それに対しトインビー博士は「まさに、私もその点を話したかったのです。長い間、この機会を待っていました。やりましょう！　21世紀のために語り継ぎましょう！」と熱く語りました。

この対話は翌年5月にも行われ、のべ10日間、合計40時間にも及びました。

4枚目／多岐にわたる対談　（3枚目の絵の裏に貼る）

対談のテーマは、「人生と社会」「政治と世界」「哲学と宗教」という、三つの柱を軸として多岐にわたりました。それは「戦争の歴史を断ち切るには」、「欲望をコントロールするには」、「“人々の真の幸福”を実現する道とは」、といった全人類的な課題でした。

トインビー博士は語りました。「現代の脅威は、人間一人ひとりの心の中の革命的な変革によってのみ、取り除くことができる」と。

それはまさに、池田先生が先頭に立って推し進めてきた、創価学会の人間革命運動そのものを言いあらわしたといえる言葉でした。

5枚目／対話をさらに広げていってください　（4枚目の絵の裏に貼る）

博士は対談のおわりに、池田先生に遺言ともいうべき思いを託しました。

「人類全体を結束させていくためにも、若いあなたは、このような対話をさらに広げていってください。ロシア人とも、アメリカ人とも、中国人とも……」と。

対談の2年後の1975年3月。トインビー博士と池田先生の対談集『二十一世紀への対話』の、日本語版が発刊されました。それを見届けるように、トインビー博士は86歳の生涯を閉じられたのです。

池田先生は、対談以降、冷戦の時代にあって米中ソ3国を相次いで訪問し各国のリーダーと対話を重ねました。また、トインビー博士から紹介された世界的な学識者と会い、世界に平和友好の“対話の渦”を巻き起こしたのです。

6枚目／対話への挑戦　（5枚目の絵の裏に貼る）

対談の最終日、ある首脳会談のニュースを見ながら、トインビー博士は語りました。

「政治家同士の対談に比べ、私たちの対談は地味かもしれません。しかし、私たちの語らいは、後世の人類のためのものです。このような対話こそが、永遠の平和の道をつくるのです」と。

対談から約40年。池田先生は走りに走り、世界中の人々と“人類の平和”にむけた対話を繰り広げてこられました。それは一人一人と“真実の友好”を結ぶ、誠実の対話でした。

池田先生は言われています。

「『対話を！　未来のために対話を！』それが、私がトインビー博士から託された生涯の使命だ。ゆえに、私は、今日も対話を続ける。対話こそ、私の生命そのものであるからだ！」

決意など